

(研究ノート)

奄美諸島と八重山諸島における 高齢者の生活と福祉ニーズ

ー将来の生活の不安と生きがい感、食生活、保健医療・
福祉サービス、地域の問題ー (2)

岩崎房子・田中安平・小窪輝吉・大山朝子・
田畑洋一・高山忠雄・玉木千賀子

奄美諸島と八重山諸島における 高齢者の生活と福祉ニーズ¹⁾

—将来の生活の不安と生きがい感、食生活、保健医療・
福祉サービス、地域の問題—(2)

岩崎房子・田中安平・小窪輝吉・大山朝子・
田畑洋一・高山忠雄・玉木千賀子²⁾

和文抄録：本研究の目的は、琉球弧の北に位置する鹿児島県の奄美諸島と南に位置する沖縄県の八重山諸島における島嶼地域の高齢者の生活の現状と福祉ニーズを把握することである。調査対象地は、奄美諸島の中心である奄美市(島嶼都市部)および瀬戸内町の加計呂麻島、請島、与路島(島嶼集落部)、八重山諸島の中心である石垣市(島嶼都市部)、竹富町西表島西部および鳩間島(島嶼集落部)であった。鹿児島県の場合、特に島嶼集落は過疎高齢化が進行し、集落機能の低下を余儀なくされている。沖縄県の場合、鹿児島県ほどの過疎高齢化は進んでいない状況であるが、島嶼地域のもつ生活上の課題を共有している。いずれも、相互扶助の伝統等の地域文化あるいはその精神が残っているという共通点を持つ地域である。

本稿では、前稿に引き続き、日常生活の不安と生きがい感、食生活、保健医療・福祉サービス、暮らし向きと地域の問題等についての分析結果とそのまとめを示す。将来の生活不安は島嶼集落部の方が島嶼都市部よりも不安を感じる人が多かった。一方、生きがい感は、島嶼都市部の方が高かった。食生活では、栄養面のバランスを欠きやすい環境下にあった。保健医療では、島嶼集落部は医療サービスの地域格差への不満や問題が見られると同時に、健康に対するセルフケア意識の高さが伺えた。福祉サービスでは、島嶼集落部では天候や交通手段によるサービスの中止や困難性などが生じていた。暮らし向きと地域の問題では地域差はなく、共通して台風、交際費、老後の生活の不安があげられ、特に瀬戸内町で地域の問題を感じている人が多かった。

Key Words: 島嶼地域、福祉サービス、将来の生活不安、生きがい感、地域の問題

本稿は、本誌前号に掲載された「奄美諸島と八重山諸島における高齢者の生活と福祉ニーズ—調査対象の健康状態、家族の状況、社会とのかかわり状況—(1)」(岩崎ら、2013)の後編である。アンケート調査の集計結果をもとに、将来の生活の不安と生きがい感、食生活、保健医療・福祉サービスおよび地域の問題を中心に報告する。

6. 将来の生活不安と生きがい感

1) 将来の生活不安

①生活の不安の程度

将来の日常生活全般についての不安の程度を表12に示す。全体では4分の3の方が不安を感じていた。地域別でみると、「不安を感じない」のは多い順に奄美市、石垣市、竹富町、瀬戸内町となり、島嶼都市部の方が島嶼集落部よりも不安を感じない方が多かった。

表12 将来の日常生活全般についての不安

	とても不安を感じる	多少不安を感じる	不安を感じない	合計
奄美市	12.3% (23)	53.5% (100)	34.2% (64)	187
瀬戸内町	28.8% (46)	46.3% (74)	25.0% (40)	160
石垣市	21.2% (38)	50.3% (90)	28.5% (51)	179
竹富町	26.1% (42)	51.6% (83)	22.4% (36)	161
合計	21.7% (149)	50.5% (347)	27.8% (191)	687

②不安の内容

将来の生活への不安を感じると答えた方にどのようなところに不安を感じるか答えてもらった結果を表13に示す。全体で最も多かったのが「自分や配偶者の健康や病気のこと」、2番目が「自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること」、3番目が「子供や孫などの将来」、4番目が「生活のための収入のこと」であった。自分や配偶者の健康面での不安と子や孫の将来への不安が高順位を示し、その次に収入への不安が来ている。

各地域とも1位と2位は同じであったが、3位は奄美市と竹富町では「収入」、瀬戸内町と石垣市では「子や孫の将来」であった。

表13 不安を感じている点(複数回答)

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
1 自分や配偶者の健康や病気のこと	①58.1% (72)	①64.8% (94)	①66.4% (87)	①58.5% (72)	①62.1% (325)
2 自分や配偶者が寝たきりや身体が不自由になり介護が必要な状態になること	②56.5% (70)	②58.6% (85)	②61.1% (80)	②50.4% (72)	②56.8% (297)
3 頼れる人がいなくなり一人きりの暮らしになること	31.5% (39)	④31.0% (45)	27.5% (36)	28.5% (35)	29.6% (155)
4 生活のために収入のこと	③41.1% (51)	28.3% (41)	③33.6% (44)	③41.5% (51)	④35.8% (187)
5 人(近隣、親戚、友人、仲間など)とのつきあいのこと	12.9% (16)	12.4% (18)	9.2% (12)	6.5% (8)	10.3% (54)
6 子どもや孫などの将来	④32.3% (38)	③32.4% (47)	③51.1% (67)	④33.3% (41)	④37.3% (195)
7 親や兄弟などの世帯	8.1% (10)	6.9% (10)	10.7% (14)	4.1% (5)	7.5% (39)
8 社会の仕組み(法制度、社会保障、金融制度)が大きく変わってしまうこと	30.6% (38)	17.9% (26)	25.2% (33)	13.8% (17)	21.8% (114)
9 目録、生活様式、人びとの考えなどが大きく変わってしまうこと	8.1% (10)	13.1% (19)	9.9% (13)	5.7% (7)	9.4% (49)
10 だまされたり、犯罪に巻き込まれて財産を失ってしまうこと	21.8% (27)	5.5% (8)	12.2% (16)	8.9% (11)	11.9% (62)
11 その他	2.4% (3)	0.7% (1)	2.3% (3)	0.8% (1)	1.5% (8)
回答者数	124	145	131	123	523

2) 生きがい感

近藤(2007)の生きがい感尺度を用いて、生きがい感を測定した。この尺度は最も低い得点が0点、最も高い得点が32点となり、得点が高いほど生きがい感が高いことを示す。

全体の平均は24.1点(SD=6.43)で、生きがい感は良好なレベルであった。地域別でみると、奄美市は25.8点(SD=6.06)、瀬戸内町は23.3点(SD=7.16)、石垣市は23.7点(SD=5.79)、竹富町は23.1点(SD=6.68)であり、奄美市の生きがい感が他の市町より高かった($F(3,466)=4.72, p<.01$)。なお、地域(都市部・集落部)×性別(男・女)×年齢(前期・後期)の分散分析を実施したところ、生きがい感は島嶼都市部が島嶼集落部よりも高く($p<.01$)、前期高齢者の方が後期高齢者よりも高かった($p<.01$)が、性差は見られなかった。地域特性に加えて、加齢による心身の衰えが生きがい感の保持に影響していると思われる。

7. 食生活

1) 食事

①食事の回数

1日の食事回数についての質問の結果を表14に示す。全体では、「3回」が92.1%と最も高く、次いで「2回」5.8%、「4回以上」1.8%、「1回」0.3%であった。地域と食事回数との間には有意な関連性はみられなかった。

表14 食事回数

	1回	2回	3回	4回以上	合計
奄美市	0% (0)	5.8% (11)	91.1% (173)	3.2% (6)	190
瀬戸内町	0% (0)	1.2% (2)	95.9% (162)	3.0% (5)	169
石垣市	0.5% (1)	4.7% (9)	94.2% (179)	0.5% (1)	190
竹富町	0.6% (1)	11.7% (19)	87.1% (142)	0.6% (1)	163
合計	0.3% (2)	5.8% (41)	92.1% (656)	1.8% (13)	712

②自炊の不便さ

自炊の不便さについて質問した結果を表15に示す。全体では、「不便でない」が76.2%、「不便である」が23.8%であった。カイ二乗検定の結果、地域と自炊の不便さの関係について有意な関連性はみられなかった ($\chi^2=3.250$, $df=3$, $n.s.$)。地域別の傾向をみると奄美市と瀬戸内町は「不便である」、石垣市は「不便でない」に高い傾向がみられた。また、竹富町はその中間に位置していた。これらの背景として、前期高齢者と後期高齢者の割合、家族との同居率、性別の割合などが考えられる。

表15 自炊の不便さ

	不便である	不便でない	合計
奄美市	24.3% (43)	75.7% (134)	177
瀬戸内町	28.3% (45)	71.7% (114)	159
石垣市	20.1% (37)	79.9% (147)	184
竹富町	22.9% (36)	77.1% (121)	157
合計	23.8% (161)	76.2% (516)	677

③自炊での心配事

自宅での自炊に関しての心配事について複数回答で質問した結果を表16に示す。全体としては、「足腰が弱くなって立っていることが苦痛」52.0%、「うでの力が弱くなってきた」28.8%、「目が見えにくくなってきた」26.2%、「その他」25.4%、「火の管理が難しくなってきた」18.1%であった。4地域ともに「足腰が弱くなって立っていることが苦痛」が最も多かったが、これに続き、奄美市では「火の管理」、瀬戸内町では「うでの力が弱くなってきた」、石垣市および竹富町では「その他」に高い傾向がみられた。

表16 自炊の心配事(複数回答)

	うでの力	視力	足腰	火の管理	その他	回答者数
奄美市	24.1% (27)	③29.5% (33)	①51.8% (58)	②30.4% (34)	27.7% (31)	112
瀬戸内町	②35.6% (42)	③25.4% (30)	①67.8% (80)	10.2% (12)	11.9% (14)	118
石垣市	③27.9% (38)	22.1% (30)	①47.1% (64)	13.2% (18)	②31.6% (43)	136
竹富町	27.3% (27)	③29.3% (29)	①40.4% (40)	20.2% (20)	②30.3% (30)	99
合計	28.8% (134)	26.2% (122)	52.0% (242)	18.1% (84)	25.4% (118)	465

④食事について気になること

日頃の食事について気になることがあるか複数回答で質問した結果を表17に示す。全体では、「特に気になることはない」が376人と最も多く、「栄養のバランスがとれていない」140人、「菓子パン・菓子類が多い」108人、「食べる量が少ない」106人、「食べ過ぎることが多い」95人、他の順であった。地域別にみると、奄美市は「できあいの惣菜が多い」「食べる量が多い」、瀬戸内町と石垣市は「菓子パン・菓子類が多い」「栄養のバランスが取れていない」、竹富町は「栄養のバランスが取れていない」「食べ過ぎることが多い」「食べる量が少ない」という傾向がみられた。独居高齢者や高齢者夫婦のみ世帯が多い島嶼地域では、菓子パンや菓子類が多いなど、栄養面のバランスを欠き、体力や免疫力低下を招きやすい食生活の環境下にあることが示唆された。

表17 食事で気になること(複数回答)

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
食事が不規則である	7.7% (14)	14.1% (22)	7.6% (14)	12.8% (19)	10.3% (69)
食べ過ぎることが多い	②12.6% (23)	11.5% (18)	17.4% (32)	③14.8% (22)	14.2% (95)
食べる量が少ない	6.6% (12)	23.1% (36)	19.6% (36)	③14.8% (22)	15.8% (106)
食べるよりビールや酒類を飲むことが多い	2.2% (4)	3.2% (5)	2.2% (4)	8.1% (12)	3.7% (25)
栄養のバランスが取れていない	11.0% (20)	②28.2% (44)	②21.7% (40)	②24.2% (36)	20.9% (140)
塩辛いものが多い	4.4% (8)	4.5% (7)	1.1% (2)	5.4% (8)	3.7% (25)
できあいの惣菜が多い	③11.5% (21)	5.8% (9)	14.1% (26)	2.7% (4)	8.9% (60)
インスタント食品が多い	6.0% (11)	6.4% (10)	1.1% (2)	6.0% (9)	4.8% (32)
冷凍食品が多い	3.3% (6)	12.8% (20)	2.2% (4)	7.4% (11)	6.1% (41)
菓子パン、菓子類が多い	9.3% (17)	③27.6% (43)	③20.1% (37)	7.4% (11)	16.1% (108)
外食や店屋ものが多い	4.9% (9)	0% (0)	2.7% (5)	1.3% (2)	2.4% (16)
その他	1.1% (2)	1.3% (2)	0.5% (1)	4.0% (6)	1.6% (11)
特に気になることはない	①64.8% (118)	①46.2% (72)	①58.2% (107)	①53.0% (79)	56.0% (376)
回答者数	182	156	184	149	671

⑤食事に関して希望するサービス

食事に関してどのようなサービスがあればよいと思うか複数回答で質問した結果を表18に示す。全体では、「特に必要ない」が342人で最も多く、「食事を配達してくれる配食サービス」164人、「食料品の宅配サービス」110人、「食料品の買い物の手助け」87人、「地域での昼食会など仲間との会食会」85人、他であった。地域別では、奄美市、瀬戸内町および石垣市は全体の上位3位までと同様であったが、竹富町は「地域での昼食会など仲間との会食会」が3位にあがった。

表18 食事で希望するサービス(複数回答)

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
食事を配達してくれる配食サービス	②28.1% (50)	②36.8% (49)	②20.9% (38)	②18.6% (27)	25.7% (164)
地域での昼食会など仲間との会食会	11.2% (20)	15.0% (20)	12.6% (23)	③15.2% (22)	13.3% (85)
食料品の宅配サービス	③19.7% (35)	③19.5% (26)	③17.0% (31)	12.4% (18)	17.2% (110)
食料品の買い物の手助け	12.9% (23)	15.8% (21)	15.4% (28)	10.3% (15)	13.6% (87)
食料品の少量ずつの販売	14.6% (26)	12.0% (16)	9.3% (17)	12.4% (18)	12.1% (77)
便利な料理集の発行	5.6% (10)	9.8% (13)	10.4% (19)	7.6% (11)	8.3% (53)
料理教室の開催	6.2% (11)	10.5% (14)	5.5% (10)	11.0% (16)	8.0% (51)
食事づくりの会	6.2% (11)	10.5% (14)	4.9% (9)	7.6% (11)	7.1% (45)
その他	2.2% (4)	0.8% (1)	2.2% (4)	1.4% (2)	1.7% (11)
特に必要ない	①56.7% (101)	①45.9% (61)	①54.4% (99)	①55.9% (81)	53.6% (342)
回答者数	178	133	182	145	638

2) 飲酒

飲酒の頻度について質問した結果を表19に示す。全体では、「あまり飲まない」が最も多く65.4%、次いで「ほぼ毎日飲む」18.9%、「時々飲む」15.7%であった。飲酒の頻度と地域との間には有意な関連性がみられ($\chi^2=12.839$, $df=6$, $p<.05$)、島嶼都市部では、飲酒はさほど習慣的ではなく、島嶼集落部では、4人に1人が習慣化していることがわかった。

表19 飲酒の頻度

	ほぼ毎日飲む	時々飲む	あまり飲まない	合計
奄美市	13.8% (23)	16.8% (28)	69.5% (116)	167
瀬戸内町	25.0% (33)	17.4% (23)	57.6% (76)	132
石垣市	14.1% (22)	14.1% (22)	71.8% (112)	156
竹富町	24.3% (35)	14.6% (21)	61.1% (88)	144
合計	18.9% (113)	15.7% (94)	65.4% (392)	599

次に、飲酒の頻度において「ほぼ毎日飲む」または「時々飲む」と答えた人に対して、飲酒の量について質問した結果を表20に示す。全体では、「適量だと思う」が61.8%を占め、次いで「少ないと思う」27.9%、「多いと思う」10.3%であった。なお、地域と飲酒量との間に有意な関連性はみられなかった($\chi^2=8.685$, $df=6$, $n.s.$)。

表20 飲酒の量

	多いと思う	適量だと思う	少ないと思う	合計
奄美市	6.5% (4)	58.1% (36)	35.5% (22)	62
瀬戸内町	13.1% (8)	57.7% (35)	29.5% (18)	61
石垣市	4.2% (2)	70.8% (34)	25.0% (12)	48
竹富町	16.1% (10)	62.9% (39)	21.0% (13)	62
合計	10.3% (24)	61.8% (144)	27.9% (65)	233

8. 保健医療

1) 健康への関心度

①健康診断受診状況

健康診断受診状況について質問した結果を表21に示す。全体では、「定期的に受診」が82.1%と最も高く、次いで「ときどき受診」9.0%、「まったく行ったことがない」7.4%、「その他」1.4%であった。カイ二乗検定をする際、期待度数が5未満のセルを解消するために「全く行ったことがない」と「その他」を合計した。その結果、対象地と健康診断受診状況の間に有意な関連性はみられず($\chi^2=11.439$, $df=6$, $n.s.$)、健康診断受診状況に地域差がないことがわかった。地域別の傾向をみると、なかでも瀬戸内町は「定期的に受診」している割合が高かった。

表21 健康診断受診状況

	定期的に受診	ときどき	全く行ったことがない	その他	合計
奄美市	82.6% (152)	6.5% (12)	8.2% (15)	2.7% (5)	184
瀬戸内町	87.8% (144)	7.3% (12)	4.9% (8)	0% (0)	164
石垣市	76.1% (143)	12.2% (23)	10.6% (20)	1.1% (2)	188
竹富町	82.7% (134)	9.9% (16)	5.6% (9)	1.9% (3)	162
合計	82.1% (573)	9.0% (63)	7.4% (52)	1.4% (10)	698

②健康教室参加状況

健康教室への参加状況について質問した結果を表22に示す。全体では、地域で開催される健康教室に「参加したことがない」が40.9%、「参加している」35.1%、「参加したことがある」22.0%、「その他」2.1%であった。カイ二乗検定をする際、期待度数が5未満のセルを解消するために「参加したことがない」と「その他」を合計した。その結果、地域と健康教室参加状況の間に有意な関連性がみられた($\chi^2=11.439$, $df=6$, $p<.001$)。地域別の傾向をみると、奄美市は「参加したことがある」、瀬戸内町は「参加している」、石垣市および竹富町は「参加したことがない」傾向がみられることがわかった。

表22 健康教室参加状況

	参加している	参加したことがある	参加したことがない	その他	合計
奄美市	32.4% (60)	25.9% (48)	40.5% (75)	1.1% (2)	185
瀬戸内町	50.6% (80)	16.5% (26)	31.0% (49)	1.9% (3)	158
石垣市	23.0% (42)	26.2% (48)	49.7% (91)	1.1% (2)	183
竹富町	36.8% (56)	17.8% (27)	40.8% (62)	4.6% (7)	152
合計	35.1% (238)	22.0% (149)	40.9% (277)	2.1% (14)	678

2) 医療サービスに対する不満や問題

医療サービスに対する不満や問題について複数回答で質問した結果を表23に示す。全体では、「特にない」が270人、「費用が高い」が187人、「診察の時に待たされる」139人、「施設が近くくない」134人、「医師が常駐していない」90人、他であった。地域別の特徴では、島嶼都市部では、「特にない」「費用が高い」「診察の時に待たされる」が上位であった。一方、島嶼集落部においては、瀬戸内町は「施設が近くくない」が最も高く、「医師が常駐していない」、「費用が高い」が上位に上った。また、竹富町は「特にない」、「十分な治療が受けられない」、「施設が近くくない」が上位に上り、島嶼集落部からは、医療サービスの地域格差への不満や問題がみられた。

表23 医療サービスに対する不満や問題(複数回答)

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
費用が高い	②30.3% (53)	③27.5% (41)	②37.7% (63)	20.4% (30)	29.3% (187)
医師が常駐していない	2.9% (5)	②33.6% (50)	15.0% (25)	6.8% (10)	14.1% (90)
施設が近くくない	5.1% (9)	①47.0% (70)	13.2% (22)	③22.4% (33)	21.0% (134)
施設や設備が悪い	1.7% (3)	4.0% (6)	11.4% (19)	7.5% (11)	6.1% (39)
十分な治療が受けられない	4.6% (8)	18.1% (27)	9.6% (16)	②23.8% (35)	13.5% (86)
診療のときに待たされる	③21.7% (38)	13.4% (20)	③31.7% (53)	19.0% (28)	21.7% (139)
医師や看護師などの職員の対応がよくない	2.9% (5)	3.4% (5)	3.6% (6)	1.4% (2)	2.8% (18)
プライバシーが守られていない	0.6% (1)	2.0% (3)	0.6% (1)	2.0% (3)	1.3% (8)
その他	1.1% (2)	2.7% (4)	3.6% (6)	6.8% (10)	3.4% (22)
特にない	①57.7% (101)	26.8% (40)	①41.3% (69)	①40.8% (60)	42.3% (270)
回答者数	175	149	167	147	638

9. 福祉サービス

1) 要介護認定

要介護認定を受けているか質問した結果を表24に示す。受けている割合の高いのは、順に石垣市、奄美市の島嶼都市部であり、次いで瀬戸内町、竹富町の島嶼集落部となっている。これは、島嶼都市部に比べ島嶼集落部に介護サービスが少ないという点を考えたら了解できる。しかし、表25の認定度における中・重度者(要介護3・4・5)の割合を見てみると、石垣市、竹富町、奄美市、瀬戸内町の順になっている。瀬戸内町において重度者が少ないのは以前の調査でも明らかになっていたことだが、加計呂麻島を除いて福祉サービスが日常的に望めない請島・与路島では、自力で入浴・食事ができなくなったらシマを離れざるを得ないという状況が依然として残っていることを意味している。

表24 要介護認定を受けている割合

	受けている	受けていない	合計
奄美市	15.5% (28)	84.5% (153)	181
瀬戸内町	14.9% (23)	85.1% (131)	154
石垣市	17.5% (30)	82.5% (141)	171
竹富町	12.8% (19)	87.2% (129)	148
合計	15.3% (100)	84.7% (554)	654

表25 要介護認定度

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
奄美市	23.1% (6)	26.9% (7)	11.5% (3)	15.4% (4)	11.5% (3)	7.7% (2)	3.8% (1)	26
瀬戸内町	33.3% (5)	33.3% (5)	6.7% (1)	13.3% (2)	6.7% (1)	0.0% (0)	6.7% (1)	15
石垣市	28.6% (8)	21.4% (6)	3.6% (1)	3.6% (1)	14.3% (4)	14.3% (4)	14.3% (4)	28
竹富町	15.8% (3)	21.1% (4)	15.8% (3)	15.8% (3)	15.8% (3)	0.0% (0)	15.8% (3)	19
合計	25.0% (22)	25.0% (22)	11.4% (10)	11.4% (10)	12.5% (11)	6.8% (6)	10.2% (9)	88

2) 在宅福祉サービスの利用状況

①在宅福祉サービスの利用状況

在宅福祉サービスの利用状況の地域ごとの割合は表26のようになる。この表で特徴的な内容は、在宅福祉サービスが少ないといわれている瀬戸内町でサービス利用が高いということである。しかも通所リハビリテーションが突出して高くなっている。要因としては、加計呂麻島内に診療所が1か所、特養が1か所、NPOによる小規模多機能型居宅介護が2か所できているせいだと思われる。要介護認定を受けている人数との比較から、奄美諸島と八重山諸島では奄美諸島のほうが全体的に在宅サービスの利用状況が高いのがわかる。また、訪問系と通所系を比較してみると、奄美市では通所系が幾分高くなっているだけだが、石垣市や竹富町では通所系が2倍近くになっており、瀬戸内町では2.4倍の開きがある。

表26 在宅福祉サービスの利用状況

	訪問介護	訪問看護	通所介護	通所リハ	合計
奄美市	26.8% (15)	17.9% (10)	32.1% (18)	23.2% (13)	56
瀬戸内町	16.4% (10)	13.1% (8)	24.6% (15)	45.9% (28)	61
石垣市	24.3% (9)	10.8% (4)	37.8% (14)	27.0% (10)	37
竹富町	16.7% (4)	16.7% (4)	41.7% (10)	25.0% (6)	24
合計	21.3% (38)	14.6% (26)	32.0% (57)	32.0% (57)	178

②在宅福祉サービス利用の満足度

現在利用している在宅福祉サービス利用の満足度の地域ごとの差異は表27のようになる。満足の度合いでは瀬戸内町が72.7%と突出して高く、次いで竹富町の45.0%となっている。やや不満と不満の合計が10%を超したのは竹富町の15.0%と奄美市の10.3%である。

表27 在宅福祉サービス利用の満足度

	満足	まあ満足	やや不満	不満	合計
奄美市	37.9% (11)	51.7% (15)	6.9% (2)	3.4% (1)	29
瀬戸内町	72.7% (24)	24.2% (8)	0.0% (0)	3.0% (1)	33
石垣市	14.3% (3)	81.0% (17)	0.0% (0)	4.8% (1)	21
竹富町	45.0% (9)	40.0% (8)	10.0% (2)	5.0% (1)	20
合計	45.6% (47)	46.6% (48)	3.9% (4)	3.9% (4)	103

3) 在宅福祉サービスに関する不満や問題点

現在福祉サービスを利用している人、利用していない人はもし利用するとして、どのような問題を感じるか質問した結果を表28に示す。「特にない」と答えた人は奄美市が突出して高く(48.0%)、次いで石垣市、竹富町、瀬戸内町の順になっている。この結果は、4地域の不満の内容を比較してみるとよくわかる。10%以上の人が不満だと答えた内容を、「特にない」の項目の比率の高い順から並べてみると、奄美市において「費用が高い」の25.0%のみで、石垣市においては「費用が高い」の27.2%、「施設が近くにない」15.2%の2項目で、竹富町では「サービスが

天候の影響で中止になりやすい」13.0%、「施設が近くにない」12.3%、「費用が高い」10.9%の3項目、瀬戸内町では「施設が近くにない」22.6%、「船や小型バスのため通所サービスの移動が苦痛」20.0%、「サービスが天候の影響で中止になりやすい」16.4%、「費用が高い」14.9%と4項目もある。この意味することは、在宅福祉サービスに関する不満や問題点は島嶼集落部に多く、島嶼都市部に少ないということである。島嶼集落部では、瀬戸内町のほうに不満や問題点が多い。

表28 在宅福祉サービスに関する不満や問題点（複数回答）

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
1. 費用が高い	25.0% (38)	14.9% (29)	27.2% (50)	10.9% (15)	19.7% (132)
2. 職員などの対応がよくない	1.3% (2)	0.0% (0)	3.3% (6)	0.7% (1)	1.3% (9)
3. 施設が近くにない	5.3% (8)	22.6% (44)	15.2% (28)	12.3% (17)	14.5% (97)
4. 施設や設備が古い	2.0% (3)	0.5% (1)	1.1% (2)	3.6% (5)	1.6% (11)
5. 通所サービスの移動時間が長い	2.0% (3)	5.6% (11)	8.2% (15)	5.1% (7)	5.4% (36)
6. 船や小型バスのため通所サービスの移動が苦痛である	0.7% (1)	20.0% (39)	1.1% (2)	6.5% (9)	7.6% (51)
7. サービスが天候の影響で中止になりやすい	2.0% (3)	16.4% (32)	3.3% (6)	13.0% (18)	8.8% (59)
8. サービスの回数、日数などが少ない	4.6% (7)	2.6% (5)	3.3% (6)	5.8% (8)	3.9% (26)
9. サービスの質が低い	1.3% (2)	1.0% (2)	4.3% (8)	3.6% (5)	2.5% (17)
10. サービスの種類が少ない	3.3% (5)	1.5% (3)	4.3% (8)	6.5% (9)	3.7% (25)
11. プライバシーが守られていない	3.3% (5)	1.0% (2)	2.2% (4)	2.2% (3)	2.1% (14)
12. 特になし	48.0% (73)	13.3% (26)	25.0% (46)	24.5% (34)	26.8% (179)
13. その他	1.3% (2)	0.5% (1)	1.6% (3)	5.1% (7)	1.9% (13)
回答者数	152	195	184	138	669

4) 介護が必要になった場合に介護を受けたい場所

自分が寝たきりや認知症になり、介護が必要になった場合に、どこで介護を受けたいかを質問した。表29に見るように、4地域とも40%以上で「可能な限り自宅で」と答えている。石垣市において、「介護付き住宅への住み替え」が10.2%と他の地域を圧倒的に引き離しているが、これは石垣市において有料老人ホームなどの選択肢が他の地域よりも多いせいだと思われる。

表29 介護が必要となった場合に介護を受けたい場所

	可能な限り自宅	介護保険施設	有料老人ホームやグループホーム	一概に旨えない	わからない	合計
奄美市	43.9% (79)	22.8% (41)	3.9% (7)	20.0% (36)	9.4% (17)	180
瀬戸内町	44.1% (63)	28.0% (40)	1.4% (2)	14.0% (20)	12.6% (18)	143
石垣市	42.4% (75)	23.7% (42)	10.2% (18)	14.0% (20)	9.6% (17)	177
竹富町	42.9% (63)	19.0% (28)	4.1% (6)	12.2% (18)	21.8% (32)	147
合計	43.3% (280)	23.3% (151)	5.1% (33)	15.3% (99)	13.0% (84)	647

5) 病気や身体の不自由な時にすぐに来てくれる人

病気や身体が不自由な時にすぐに来てくれる人は誰かを質問した。表30の内訳に見るように、石垣市においては、子供や孫がすぐ駆けつけてくれると答えた人が、80.0%、瀬戸内町では48.0%しかいない。「近所の人」と答えた比率は、竹富町において第2位、瀬戸内町において同率3位となっているが、島嶼都市部の奄美市では6位、石垣市では7位となっており、島嶼集落部において頼りになるのは、「遠くの親戚より近くの他人」という言葉を明確に表している。もっとも特徴的な内容は、「いない」と回答した比率が奄美諸島に比べ、八重山諸島において3～7倍近くもいることである。これは、八重山諸島においてIターン者が定着していることを意味している。

表30 病気や身体の不自由な時にすぐに来てくれる人

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
子どもや孫	58.0% (109)	48.0% (72)	80.0% (140)	59.5% (88)	61.9% (409)
兄弟・姉妹	13.8% (26)	10.0% (15)	8.0% (14)	5.4% (8)	9.5% (63)
親 戚	8.0% (15)	18.0% (27)	2.9% (5)	3.4% (5)	7.9% (52)
近所の人	3.7% (7)	10.0% (15)	1.1% (2)	14.2% (21)	6.8% (45)
友人・知人	9.6% (18)	7.3% (11)	1.7% (3)	9.5% (14)	7.0% (46)
民生委員等	4.3% (8)	4.0% (6)	0.6% (1)	3.4% (5)	3.0% (20)
その他	2.1% (4)	2.0% (3)	3.4% (6)	1.4% (2)	2.3% (15)
いない	0.5% (1)	0.7% (1)	2.3% (4)	3.4% (5)	1.7% (11)
合計	188	150	175	148	661

10. 暮らし向きと地域問題

1) 暮らし向き

家計状態の困窮の程度を表31に示す。全体では、「困っている」と「少し困っている」を合わせた『困っている』は32.6%で、「あまり困っていない」と「困っていない」を合わせた『困っていない』は67.4%であり、暮らし向きで『困っている』方は3割と少ないほうであった。地域別にみると、「困っている」と「少し困っている」を合わせた『困っている』は29.9%~35.2%の範囲にあり、暮らし向きについて地域差は見られなかった。

表31 暮らし向きの困窮度

	困っている	少し困っている	あまり困っていない	困っていない	合計
奄美市	9.0% (17)	26.1% (49)	23.9% (45)	41.0% (77)	188
瀬戸内町	11.0% (18)	18.9% (31)	29.3% (48)	40.9% (67)	164
石垣市	3.7% (7)	26.6% (50)	34.6% (65)	35.1% (66)	188
竹富町	13.0% (21)	22.2% (36)	28.4% (46)	36.4% (59)	162
合計	9.0% (63)	23.6% (166)	29.1% (204)	38.3% (269)	702

2) 地域の問題

地域の問題について、住んでいる地域でどのような問題を感じているか複数回答で答えてもらった。表32に結果を示す。全体で最も多いのが「8. 台風などの自然災害」で、2番目が「14. 交際費」、3番目が「12. 老後の生活への不安」であった。台風常襲地帯という地理的特性からくる課題、人間関係維持を大事にする伝統的背景からくる課題、それと老後生活の不安という現代日本が抱える社会的課題がトップ3を占めていた。

奄美市で最も多いのが「8. 台風などの自然災害」、2番目が「14. 交際費」、3番目が「9. ハブの存在」であった。瀬戸内町で最も多いのが「8. 台風などの自然災害」、2番目が「9. ハブの存在」、3番目が「15. 人口減少」であった。石垣市で最も多いのが「14. 交際費」、2番目が「問題はない」、3番目が「老後の生活への不安」であった。竹富町で最も多いのが「10. 老後の生活への不安」、2番目が「3. 救急医療体制」、3番目が「14. 交際費」であった。

奄美市と瀬戸内町の奄美諸島では「9. ハブの存在」をあげている方が多かった。また、地域の問題を多く感じているのは瀬戸内町であった。

表32 地域で感じている問題(複数回答)

	奄美市	瀬戸内町	石垣市	竹富町	合計
1. 日常の買い物に不便である	7.9% (14)	41.4% (63)	13.3% (23)	30.7% (46)	22.4% (146)
2. 病院や病院への通院で、足の確保が困難である	6.7% (12)	37.5% (57)	15.0% (26)	28.0% (42)	21.0% (137)
3. 急病の時の医療体制不十分である	5.6% (10)	38.2% (58)	12.1% (21)	②39.3% (59)	22.7% (148)
4. 福祉のサービスが不十分である	0.6% (1)	13.2% (20)	11.6% (20)	22.0% (33)	11.3% (74)
5. バスや定期船など交通機関が充実していない	1.7% (3)	22.4% (34)	11.6% (20)	26.7% (40)	14.9% (97)
6. 近隣道路が整備されていない	3.9% (7)	19.7% (30)	0.6% (1)	3.3% (5)	6.6% (43)
7. 集合施設、商店など公共的建物が高齢者には使いにくい	4.5% (8)	6.6% (10)	13.3% (23)	7.3% (11)	8.0% (52)
8. 台風など自然災害に弱い	①42.1% (75)	①73.0% (111)	22.5% (39)	32.7% (49)	①42.0% (274)
9. ハブがあるので困る	③33.1% (59)	②66.4% (101)	4.0% (7)	18.0% (27)	29.7% (194)
10. 一人暮らし高齢者など老後生活に不安がある	27.5% (49)	43.4% (66)	③25.4% (44)	①40.7% (61)	③33.7% (220)
11. 趣味や習い事などの学習機会が少ない	6.7% (12)	18.4% (28)	11.0% (19)	27.3% (41)	15.3% (100)
12. 老後の時間をもてあましている	2.8% (5)	5.9% (9)	11.0% (19)	2.7% (4)	5.7% (37)
13. 子育てに不便である	0.0% (0)	5.3% (8)	1.2% (2)	4.0% (6)	2.3% (15)
14. 交際にお金がかかる	②34.8% (62)	49.3% (75)	①39.9% (69)	③34.7% (52)	②39.5% (258)
15. 人口が減って集落や地域の維持が困難になっている	18.5% (33)	③65.8% (100)	1.2% (2)	18.0% (27)	24.8% (162)
16. その他	5.1% (9)	2.6% (4)	0.6% (1)	4.7% (7)	3.2% (21)
17. 何も問題を感じていない	29.2% (52)	7.2% (11)	②31.8% (55)	22.0% (33)	23.1% (151)
回答者数	178	152	173	150	653

11. 意見・要望(自由記述)

調査結果のうち、自由表記で記述されたものは、行政への要望と地域における問題の指摘などであり、まとめると以下ようになった。

1) 行政への要望

行政への要望は、主として①公共施設・設備の整備および改善、②福祉サービス、③医療サービスに関するものである。

①については、自然災害を想定した避難場所や防災設備(防潮堤など)の設置および改善を望む記述があった。また、島嶼集落部である瀬戸内町と竹富町では、生活の足である船の増便および運賃の軽減を望む声も多かった。そして、竹富町では行政の窓口が石垣市に置かれていることを指摘し、様々な手続きをする際、非常に不便であるという記述が多く見受けられた。

②については、そのほとんどが介護保険制度、生活保護制度に関する記述である。とくに介護保険制度に関しては、年金からの「天引き」という保険料徴収方法についての不満やサービスを利用する際の自己負担料金についての不満であった。以上のような高齢者の主な公的支出に関する記述に対し、収入源としての年金に対する不安を訴える記述もあった。また、竹富町では介護保険サービスの量自体が少ないという声も多く、具体的に「グループホーム」という名称を挙げその設置を希望する記述も2、3見受けられた。生活保護制度については、生活保護受給者に対する行政の対応が適切ではないという指摘や生活保護受給者と自分たち(非保護者)との不平等感を訴えるものがあった。

③については、医療保険の負担についての不満、医療機関の拡充を望む声記述があった。とくに瀬戸内町と竹富町では、常時医療サービスが受けられるように既存のシステムの改善を望む記述が多く、島嶼集落部における医療サービス提供体制の課題を改めて認識した。

その他、地域における健康づくり教室の開催を望む記述があったが、趣味・文化活動に関しても、幅広い活動範囲への参加を希望する人がおり、福祉サービスや医療サービスを含む、さらに広い意味での社会サービスの量的な供給不足を痛感した。

2) 地域における問題

地域における問題については、独居世帯である高齢者の方の見守り、老人クラブの入会者の減少、過疎化による空家、ご近所間のトラブル解決の必要性等、全国的な地域問題と共通する記述がみられた。一方、多少ではあるが、離島特有の地域における助け合いの仕組み(結いクラブ)や結束の強さを評価する記述もあり、島嶼部における伝統的相互扶助の存在が微かに感じられた。

さらに地域における問題解決の相談者として民生委員をあげ、一層その活動の活発化に期待する人が多かったが、なかには「多忙な民生委員に依存するシステムを見直しすべしと思う」という貴重な地域のまとめ役である人々への過重な負担を懸念する記述もあった。このことは、お互いが支援し合うという「互助」よりは、一方だけが支援するという「手伝い」的な「手助け」が今の地域をかるうじて支えていることを教えてくれている。

まとめ

本研究では、琉球弧の島嶼における高齢者の生活の現状と福祉ニーズを把握するため、鹿児島県の奄美諸島の奄美市と瀬戸内町、沖縄県の八重山諸島の石垣市と竹富町の4地域の高齢者を対象にアンケート調査を実施した。調査地域の比較を主とした集計結果は次のとおりである。

1. 対象者の属性

年齢は、島嶼集落部において特徴がみられ、竹富町では前期高齢者の割合が高く、平均年齢76.5歳と最も低かった。一方、瀬戸内町では、後期高齢者の割合が高く、平均年齢79.5歳と最も高かった。性別では、4地域の男女比はほぼ同じ割合であった。

2. 健康状態

4地域ともに、健康であると答えた割合より、やや健康であると答えた割合が高かった。瀬戸内町では、継続的な理学療法を必要とする脳卒中や、定期的な健康・栄養管理が必要となる糖尿病等はほとんどみられなかった。島嶼集落部における医療機関の不足や食料調達上の諸問題が関連していることが推察された。日常生活での介助の必要度では、瀬戸内町以外の地域は、まったく不自由なく過ごせると答えた割合が高かった。瀬戸内町においては、少し不自由だが何とか自分でできると答えた割合が高く、一部介助の割合が極端に少ないことから、一部介助になった時＝地域を離れる時であることが推察された。

3. 家族の状況

石垣市においては、子どもとの同居世帯が多く一人暮らし世帯が少なかった。一方、瀬戸内町では、子どもとの同居世帯は最も低かった。また、子どもとの同居割合は、奄美諸島と八重山諸島の差が大きいことがわかった。

4. 社会参加状況

集落行事への参加と近所付き合いの頻度はともに高かった。集落行事への参加は島嶼集落部の方が島嶼都市部よりも高かった。

5. 社会関連性指標

普段の生活における全体的な社会的かかわり状況は島嶼都市部の方が高い傾向にあった。社会関連性の個別領域においては、それぞれの対象地の持つ特性要因が関連していた。

6. 将来の生活不安と生きがい感

島嶼集落部の方が島嶼都市部よりも不安を感じる人が多かった。不安の内容は、自分や配偶者の健康面、子供や孫の将来、生活のための収入が多かった。生きがい感は「ふつう」レベル以上であった。特に島嶼都市部の奄美市で生きがい感が高かった。

7. 食生活

食事回数は、4地域ともに1日3回摂取が多かった。自炊の不便さでは、奄美市と瀬戸内町は、不便であると答えた割合が高く、石垣市では不便でないと答えた割合が高かった。食事について気になることについては、菓子パンや菓子類が多いなど、栄養面のバランスを欠き、体力や免疫力低下を招きやすい食生活の環境下にあることが示唆された。飲酒に関しては地域差がみられ、島嶼都市部は飲酒はさほど習慣的ではなく、島嶼集落部では4人に1人が習慣化していた。

8. 保健医療

健康診断の受診状況は、瀬戸内町では定期的に通診している割合が高かった。健康教室への参加状況では地域差がみられ、奄美市は参加したことがある、瀬戸内町は参加している、石垣市および竹富町は参加したことがない傾向がそれぞれ高かった。医療サービスに対する不満や問題については、島嶼都市部では、「特にない」「費用が高い」「診察の時に待たされる」が上位であった。一方、島嶼集落部では特徴がみられ、瀬戸内町は「施設が近くにない」が最も高く、「医師が常駐していない」、「費用が高い」が上位に上り、竹富町は「特にない」、「十分な治療が受けられない」、「施設が近くにない」が上位に上った。島嶼集落部は、医療サービスの地域格差の不満や問題がみられると同時に、健康に対するセルフケア意識の高さが伺えた。

9. 福祉サービス

在宅福祉サービス利用の満足度に関して、瀬戸内町は「満足」と答えた割合が突出して高く、次いで竹富町の順で、島嶼集落部の満足度が高くなっている。ところが、在宅福祉サービス利用に関する不満や問題点では、奄美市において「費用が高い」、「特にない」の2点だが、石垣市においてはこれ以外に「施設が近くにない」で、竹富町ではさらに「サービスが天候の影響で中止になりやすい」が加わり、瀬戸内町においてはその上に「船や小型バスのため通所サービスの移動が困難」などがあげられ、島嶼集落部において問題点が多くみられた。

10. 暮らし向きと地域問題

家計状況で「困っている」と答えた方は3割ぐらいで、地域差はなかった。地域の問題では、共通して台風、交際費、老後生活の不安があげられた。瀬戸内町で地域の問題を感じている方が多かった。

11. 意見・要望(自由記述)

自由回答の内容は、行政に対する要望がそのほとんどを占めていた。とくに、公共施設・設備

の整備および改善とともに介護保険の保険料徴収に対する不満、少ない年金からの天引きという徴収方法に納得がいかないという意見が非常に多く聞かれた。加えて、福祉サービスや医療サービス供給体制に関する要望も少なくなかった。

また、地域における課題については、問題解決の担い手である地域の一部の人々(民生委員さんをはじめとする)に過重な負担がかかっている現状があり、全国的な地域問題との共通点ともいえる地域存続の危機感が感じられた。加えて「言いたい事、書きたい事は多々あるが、どういふふうに書いたらよいかわからないのでやめた」という記述のあった島嶼集落部(瀬戸内町・竹富町)では、生活のあらゆる面での不便さを改めて認識させられる結果となった。

以上のことを受け、次のような提言をしたい。

- ① 奄美諸島において、離島間の定期航路を1日に2往復以上確保する(奄美群島振興開発基金の活用)。陸路における交通手段のように1日に数度往復する便が確保されると、離島間の人的交流が可能になり、産業・観光の活性化に役立つ。ひいては、新たな観光客を呼び込むことにつながる。
- ② NPO等による福祉サービスを提供できる事業所の創設。雇用の確保にもつながり、住民の流出を防ぐとともにU・Iターン者の定着にもつながる。人々が集まる拠点ができることで、互助・共助につながる。これは両諸島において求められる内容である。

注

- 1) 本研究にあたっては、調査へのご回答をいただいた奄美市・瀬戸内町・石垣市・竹富町にお住まいの高齢者のみなさまをはじめ、調査実施にご協力をいただいた21名の民生委員の方々、および各種関連団体(奄美市民生委員児童委員協議会、瀬戸内町民生委員児童委員協議会、石垣市民生委員児童委員協議会、竹富町民生委員児童委員協議会、瀬戸内町社会福祉協議会、竹富町社会福祉協議会、瀬戸内町役場、竹富町役場)からのご協力をいただいた。書面を借りて感謝申しあげる。
なお、本研究は、文部科学省科学研究費補助金基盤研究(B)『琉球弧における地域文化の再考と地域再生プランおよび実践モデル化に関する研究』(研究代表者:田畑洋一、課題番号 23330190)の成果の一部である。
- 2) 沖縄大学人文学部福祉文化学科 准教授

文献

- 岩崎房子・小窪輝吉・田中安平・田畑洋一・高山忠雄・玉木千賀子(2013)「奄美諸島と八重山諸島における高齢者の生活と福祉ニーズ —調査対象者の健康状態、家族の状況、社会とのかかわり状況—(1)」『鹿児島国際大学福祉社会学部論集』第32巻第1号, 89-101.
- 近藤勉(2007)『生きがいを測る —生きがい感てなに?』ナカニシヤ出版.

Life Styles and Social Welfare Needs of the Elderly Who Live on the Amami Islands and the Yaeyama Islands

- Anxiety about future life, feeling that life is worth living, eating habits, health-care and welfare services, and regional issues - (2)

Fusako Iwasaki, Yasuhira Tanaka, Teruyoshi Kokubo,
Asako Oyama, Yoichi Tabata, Tadao Takayama,
Chikako Tamaki

The purpose of the study was to investigate the life styles and the social welfare needs of the elderly who live on the Amami Islands and the Yaeyama Islands through a questionnaire survey. The regions surveyed were the urban area of the Amami Ohshima (Amami City) and the rural area of the Kakeroma Islands (Setouchi Town) in Kagoshima prefecture, and the urban area of Ishigaki Island (Ishigaki City) and the rural area of Iriomote Island and Hatoma Island (Taketomi Town) in Okinawa Prefecture. The people who dwell on these remote islands are usually under unfavorable conditions geographically and economically and the communities there are under functional decline due to depopulation and aging. On the other hand, these islands keep the spirit of mutual helping and the traditional cultures.

In this paper we report analyses of the anxiety about future life, the feeling that life is worth living, the eating habits, the evaluation of health-care services and welfare services, the family finances, and other regional issues. The anxiety about future life was higher in the rural areas of the islands than in the urban areas. On the other hand, the feeling that life is worth living was higher in the urban areas of the islands than in the rural areas. Respondents were prone to eat poor-balanced meals. In the rural areas of the islands, while they expressed their dissatisfaction with regional gaps of health-care services, they showed high awareness of self-care about their own health. In the rural areas of the islands, welfare services at home were sometimes cancelled by bad weather or transportation trouble by sea. There was no difference in the family finances and regional issues between areas. Regional issues shared by all islands were the vulnerability to typhoons, high social expenses, and the anxiety about life in the future, and especially the elderly in the Setouchi Town listed more regional issues than those in other areas.

Key Words: Remote islands, Social welfare services, Anxiety about future life, Feeling that life is worth living, Regional issues

